



# 2022年度 第1四半期決算報告

2022年8月4日

日清食品ホールディングス株式会社  
(証券コード：2897)

決算説明会開催日：2022年8月4日

- CFOの矢野でございます。それでは、2022年度第1四半期の業績について、資料に沿って、ご説明をさせていただきます。

## 2022年度 第1四半期 決算ハイライト

- 売上収益：3事業いずれも増収。海外事業が全体を牽引し、連結で2桁増を達成
- 既存事業コア営業利益：コスト上昇を、増収や生産効率改善等によりカバーし増益確保
- 新規事業：完全メシ（5種類）販売開始（5/30～）、1ヵ月で100万食突破

	第1四半期 実績		通期業績予想	
		前期比		前期比
売上収益	1,493億円	+ 12.7%	5,950億円	+ 4.4%
<b>既存事業コア営業利益</b>	<b>134億円</b>	<b>+ 1.3%</b>	<b>520億円</b>	<b>+ 4.9%</b>
国内即席めん事業	86億円	+ 7.2%	340億円	+ 2.9%
国内非即席めん事業	18億円	△19.6%	71億円	+ 9.7%
海外事業	41億円	+ 7.1%	160億円	+17.2%

1

- 1ページをご覧ください。
- まず、売上収益ですが、国内即席めん事業、国内非即席めん事業及び海外事業、いずれも増収となりました。
- 特に海外事業が全体を牽引し、連結で前期比プラス12.7%、2桁増収を達成しております。
- 営業利益から新規事業を除いた、既存事業コア営業利益は、資材費等のコスト上昇による減益圧力を増収や生産効率改善等によりカバーし、前期比プラス1.3%の増益となる134億円で着地しています。
- また、5月末には、新規事業において、5種類の「完全メシ」の販売を開始しました。1ヵ月で100万食の販売実績となり、計画を超える強い需要を確認しております。
- 年度予想、売上収益5,950億円・既存事業コア営業利益520億円に対する進捗率は、売上・利益とも25%程度の水準であり、社内計画も上回って推移していますが、足元の資材・原油価格の高騰や為替相場の影響が広範囲に及んでいることや、日本国内の猛暑の影響などを考慮しますと、外部環境は必ずしも楽観できる状況にはないと思っております。
- こうした中で、国内事業では、6月から実施した価格改定をしっかりと定着させる一方、高付加価値商品などによる顧客層の拡大を継続すること、海外では各国の市場環境に応じたマーケティング・商品力強化、及び、説明資料の12・13ページに掲載させて頂いている通り、価格改定を実施するなど、地道に収益の底上げを図っていきたく考えています。
- 次のページをお願いします。

## ■ 連結決算サマリー

価格改定及び為替影響も加わり、海外事業が全体を牽引、+12.7%の増収を達成  
 既存事業コア営業利益は、資材等コスト増を価格改定等で吸収し、増益確保

単位：億円	2022年度 第1四半期 決算開示ベース			2022年度 第1四半期 為替一定ベース		
	実績	前期比		実績	前期比	
		増減額	増減率		増減額	増減率
売上収益	1,493	+ 168	+ 12.7%	1,411	+ 86	+ 6.5%
既存事業コア営業利益	134	+ 2	+ 1.3%	129	△ 4	△ 2.7%
営業利益	133	+ 0	+ 0.1%	127	△ 6	△ 4.4%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	75	△ 4	△ 4.6%	72	△ 7	△ 9.4%
既存事業コア営業利益率	9.0%	△ 1.0pt		9.1%	△ 0.9pt	
営業利益率	8.9%	△ 1.1pt		9.0%	△ 1.0pt	
親会社の所有者に帰属する 四半期利益率	5.0%	△ 0.9pt		5.1%	△ 0.9pt	

2

- このスライドは、前のページのハイライトをもう少し詳細に記載したサマリーとなります。「親会社の所有者に帰属する四半期利益」が、前期比でマイナスとなっておりますが、これは、課税対象となる利益の構成の対前期比変動によるテクニカルな要因が主なもので、年度を通じては、標準的な実効税率である30%程度に落ち着く見込みです。
- 次のページをお願いします。

## セグメント別：決算サマリー

売上収益は海外事業が大幅増、国内事業も底堅い需要を背景に増収を確保  
国内即席めん事業と海外事業は増益、国内非即席めん事業はコスト増により、減益着地

### 国内即席めん事業

日清食品のミックス改善等により、増収  
コスト増を増収等によりカバーし、増益

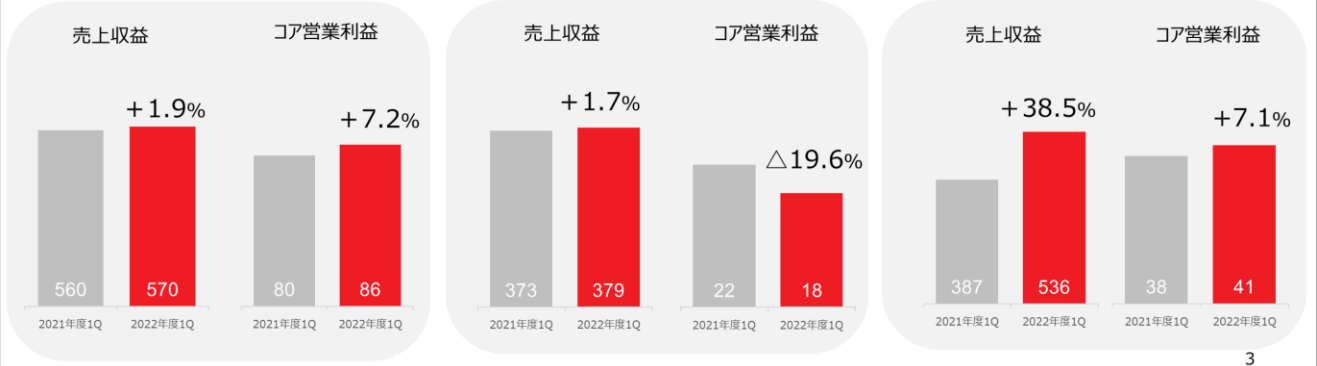
### 国内非即席めん事業

好調な菓子事業により増収も、資材高騰  
により、減益

### 海外事業

全地域で2桁の増収（米州地域+48%）  
コスト増を吸収し、増益

(億円)



3

- 続きましてセグメント別の決算サマリーです。
- 左から、まず、国内即席めん事業は、前期比1.9%の増収、7.2%の増益となりました。これは、日清食品を中心に売上が堅調に推移し、商品ミックスの改善効果もあったことなどが主な要因です。
- 次に真ん中の国内非即席めん事業ですが、好調な菓子事業により、前期比1.7%の増収となりましたが、コスト増もあり、4億円程度の減益となりました。
- 最後に海外事業ですが、前期比38.5%の増収、7.1%の増益となり、昨年度に引続き、連結業績を牽引するかたちとなりました。
- 次のページをお願いします。

## セグメント別 売上収益実績

前期比2桁成長となった海外事業を中心に、底堅い需要に対応、ほぼ全てのセグメントで増収

単位：億円	2022年度 第1四半期 決算開示ベース			2022年度 第1四半期 為替一定ベース		
	業績	前期比		業績	前期比	
		増減額	増減率		増減額	増減率
日清食品	478	+ 12	+ 2.6%	478	+ 12	+ 2.6%
明星食品	93	△ 2	△ 1.6%	93	△ 2	△ 1.6%
<b>国内即席めん事業</b>	<b>570</b>	<b>+ 11</b>	<b>+ 1.9%</b>	<b>570</b>	<b>+ 11</b>	<b>+ 1.9%</b>
低温・飲料事業	204	+ 1	+ 0.7%	204	+ 1	+ 0.7%
菓子事業	176	+ 5	+ 2.9%	176	+ 5	+ 2.9%
<b>国内非即席めん事業</b>	<b>379</b>	<b>+ 6</b>	<b>+ 1.7%</b>	<b>379</b>	<b>+ 6</b>	<b>+ 1.7%</b>
国内その他	7	+ 2	+ 40.8%	7	+ 2	+ 40.8%
<b>国内事業 計</b>	<b>957</b>	<b>+ 19</b>	<b>+ 2.0%</b>	<b>957</b>	<b>+ 19</b>	<b>+ 2.0%</b>
米州地域	299	+ 97	+ 47.9%	246	+ 43	+ 21.5%
中国地域	155	+ 32	+ 26.5%	133	+ 11	+ 9.0%
アジア地域	48	+ 14	+ 41.0%	42	+ 8	+ 25.0%
EMEA地域	34	+ 6	+ 20.8%	33	+ 4	+ 15.4%
<b>海外事業 計</b>	<b>536</b>	<b>+ 149</b>	<b>+ 38.5%</b>	<b>454</b>	<b>+ 67</b>	<b>+ 17.4%</b>
<b>連結 計</b>	<b>1,493</b>	<b>+ 168</b>	<b>+ 12.7%</b>	<b>1,411</b>	<b>+ 86</b>	<b>+ 6.5%</b>

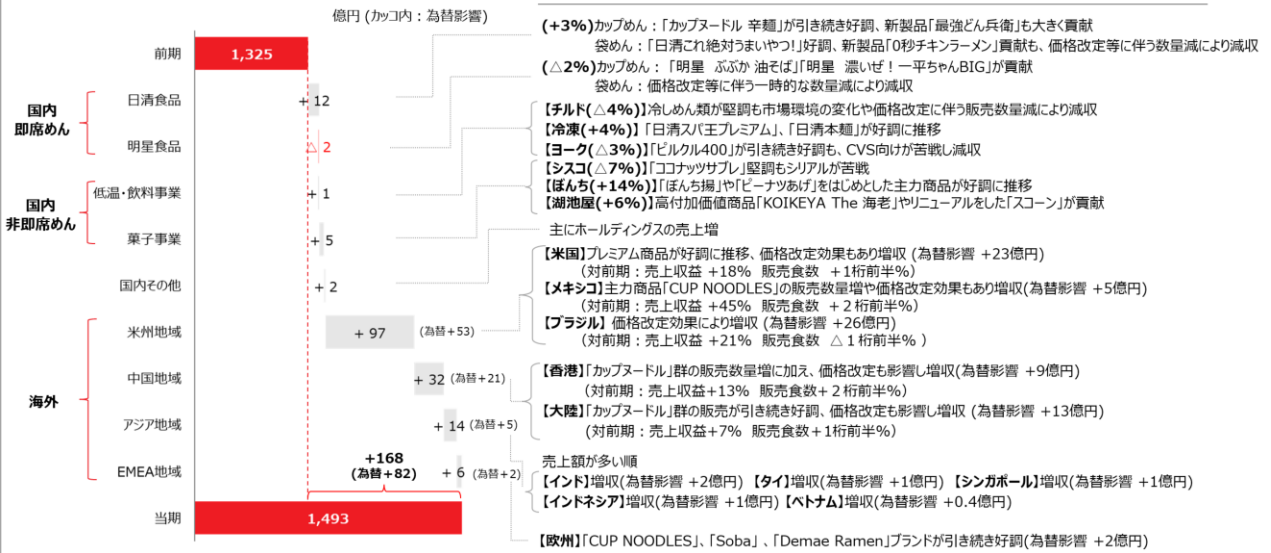
\* 中国地域の実績は、日清食品HDの連結方針に基づきもので、香港日清の開示とは異なる可能性があります

4

- セグメント別売上収益実績のブレイクダウンになります。
- 全てのセグメントで増収となっていますが、特に国内に先んじて価格改定を実施した海外事業は、為替要因も加わり、全地域で2桁の増収、全体で前期比38.5%の大幅な増収となりました。
- 海外事業が連結売上に占める割合も2021年度通期の30%から6ポイント上昇し、36%となっています。これは、海外において価格改定後も高い需要が続いていることに加え、単価の高い高付加価値商品のニーズが高まっていることによるものです。
- 国内即席めん事業は、1.9%の増収となりました。日清食品は、堅調であった4月、5月実績に加え、商品ミックス改善や6月実施の価格改定効果などを背景に前期比2.6%の増収となりました。
- 明星食品は、価格改定等に伴う袋めんの一時的な数量減などにより、前期比1.6%の減収となりました。2Q以降は、価格改定の定着へ向けた諸施策を実施し、販売数量の維持、増加を目指してまいります。
- 国内非即席めん事業は、冷凍、菓子事業の増収により、前期比1.7%の増収となりました。好調な湖池屋、ぼんちの売上増が下支えしたかたちとなりました。
- 次のページをお願いします。

# セグメント別 売上収益貢献度 (前期比・決算開示ベース)

## 主な要因\*



\* 海外に関するコメント及び前期比は、すべて現地通貨ベースの売上収益に基づいて記載しております

- こちらは、各セグメントの売上収益貢献度の詳細をお示ししています。
- 大きく伸長しているのが、左側の中段の海外事業で、全体の増収額168億円の9割弱の寄与度となりました。特に米州地域は、価格改定効果に加え、米国でのプレミアム商品群の伸長やブラジル、メキシコでの底堅い需要もあり、今後も売上収益を牽引するドライバーとして期待しています。また、中国地域、アジア地域、EMEA地域においても、増収トレンドが継続しています。
- 国内即席めん事業では、日清食品の「カップヌードル辛麺」の好調が持続していることに加え、新製品の「最強どん兵衛」や「0秒チキンラーメン」も純増で、増収に貢献しています。また、ライス系商品も増収に寄与しており、商品ポートフォリオの多様化が着実にポジティブな効果を現れてきていると言えます。
- 国内非即席めん事業では、湖池屋の高付加価値商品「KOIKEYA The 海老」などヒット商品や、米菓需要の高まりを背景とした、ぼんちの増収などを主因に増収着地となっています。
- 次のページをお願いします。

## セグメント別 コア営業利益実績

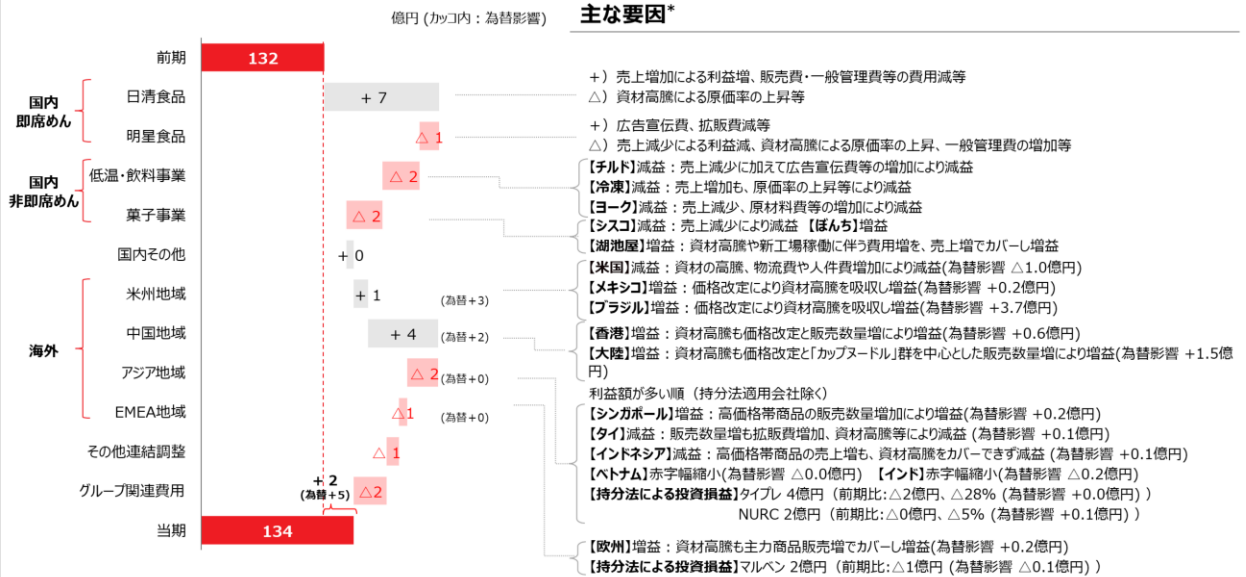
日清食品、米州地域、中国地域セグメントで増益を達成し、既存事業コア営業利益は増益確保

単位：億円	2022年度 第1四半期 決算開示ベース					2022年度 第1四半期 為替一定ベース		
	営業利益	その他 収支	コア営業利益	前期比		コア営業利益	前期比	
				増減額	増減率		増減額	増減率
日清食品	77	0	77	+7	+10.0%	77	+7	+10.0%
明量食品	9	0	9	△1	△12.2%	9	△1	△12.2%
<b>国内即席めん事業</b>	<b>86</b>	<b>0</b>	<b>86</b>	<b>+6</b>	<b>+7.2%</b>	<b>86</b>	<b>+6</b>	<b>+7.2%</b>
低温・飲料事業	10	0	10	△2	△18.1%	10	△2	△18.1%
菓子事業	8	△0	8	△2	△21.5%	8	△2	△21.5%
<b>国内非即席めん事業</b>	<b>18</b>	<b>0</b>	<b>18</b>	<b>△4</b>	<b>△19.6%</b>	<b>18</b>	<b>△4</b>	<b>△19.6%</b>
国内その他	6	0	6	+0	+8.0%	6	+0	+8.0%
<b>国内事業 計</b>	<b>110</b>	<b>1</b>	<b>110</b>	<b>+2</b>	<b>+1.7%</b>	<b>110</b>	<b>+2</b>	<b>+1.7%</b>
米州地域	13	0	13	+1	+7.2%	10	△2	△18.1%
中国地域	19	4	15	+4	+38.4%	13	+2	+19.4%
アジア地域	8	0	8	△2	△18.5%	8	△2	△20.6%
EMEA地域	5	△0	5	△1	△9.1%	5	△1	△10.7%
<b>海外事業 計</b>	<b>44</b>	<b>3</b>	<b>41</b>	<b>+3</b>	<b>+7.1%</b>	<b>36</b>	<b>△3</b>	<b>△6.9%</b>
<b>国内・海外事業 計</b>	<b>155</b>	<b>4</b>	<b>151</b>	<b>+5</b>	<b>+3.1%</b>	<b>145</b>	<b>△1</b>	<b>△0.6%</b>
その他連結調整	△1	△0	△1	△1		△1	△1	-
グループ関連費用	△15	-	△15	△2		△15	△2	-
<b>既存事業 計</b>	<b>138</b>	<b>4</b>	<b>134</b>	<b>+2</b>	<b>+1.3%</b>	<b>129</b>	<b>△4</b>	<b>△2.7%</b>
新規事業	△6	△0	△6	△3		△6	△3	-
<b>連結 計</b>	<b>133</b>	<b>4</b>	<b>129</b>	<b>△1</b>	<b>△1.0%</b>	<b>123</b>	<b>△7</b>	<b>△5.1%</b>

\* 中国地域の実績は、日清食品HDの連結方針に基づくもので、香港日清の開示とは異なる可能性があります

- セグメント別コア営業利益の実績です。連結全体としては、為替影響に加え、広範囲に及ぶコスト上昇圧力を増収でカバーし、既存事業合計で前期比4億円、1.3%増益の134億円となりました。日清食品、米州地域、中国地域で増益となっております。
- 期初計画では、ウクライナ情勢「前」の市況前提で年間170億円程度の資材価格上昇をおりこんでいましたが、足元のインフレ影響は広範囲に及んでいますので、引き続き、適正な価格への改定や各種コストの低減に努め、この影響を抑え込んでいきたいと考えています。
- インフレが加速している海外では価格改定が着実に進んで増収に結びつき、コスト上昇を一部補完している状況です。また、米国日清では、8月に大幅な価格改定を予定しており、年度ベースでコスト上昇分を価格改定による増収でカバーしていく組み立てとしています。
- 次のページをお願いします。

# セグメント別 既存事業コア営業利益貢献度 (前期比・決算開示ベース)



\* 海外に関するコメント及び前期比は、すべて現地通貨ベースのコア営業利益に基づいて記載しております

- 既存事業コア営業利益の貢献度分析です。全般的にコスト増の下押し圧力があるなかで、価格改定や高付加価値商品の注力などによる増収により、前年水準をキープしている状況です。
- 次のページをお願いします。



# 既存事業コア営業利益の増減要因（前期比・決算開示ベース）



\* 国内その他セグメントのコア営業利益増減は「H：その他」に含めて表示  
 \*\* 別途「調整額」として前期比△3億円の差異発生

【増減要因の算出法】  
 ① 限界利益 (A,B,C) = (当期の売上収益 × 前期の売上収益比率) - 当期費用 \* 売上収益に販売費控除額を足し戻した額を元に算定  
 ② 固定費 (D,E,F) = 前期費用 - 当期費用  
 ③ その他 (G) = 前期実績 - 当期実績  
 (H) = 国内その他セグメントのコア営業利益増減

- 今回決算の既存事業コア営業利益の増減要因の全体観です。
- 大きな動きがあった項目としては、国内外の売上収益変動と原価率変動ですが、この要因は、これまでご説明してきた通りです。
- 最後に自社株買いの状況について、簡単に触れさせていただきます。
- 2022年2月3日に公表させていただいた、上限187万5千株、120億円の自己株式の取得でございますが、7月末時点で112.8万株、97億円まで、順調に取得が進んでいます。
- 私からの説明は以上です。

# Appendix

## 2022年度 通期連結業績予想 (ロシア・ウクライナ情勢を含まず)

既存事業コア営業利益ベースで520億円を目指す。IFRS営業利益は、引き続き積極的な新規事業投資を行っていくことにより470~495億円の水準となる見通し

売上収益	5,950 億円	・原則として既存事業からあがる売上収益を指す
<b>既存事業コア営業利益</b>	<b>520 億円</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシア・ウクライナ情勢を含まず</li> <li>・Mid-single Digit中位である+5%成長に相当</li> </ul>
営業利益	470 ~ 495 億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規事業投資を既存事業コア営業利益の5~10%にて実施</li> <li>・減損や特別利益等のその他収支は見込まず</li> </ul>
親会社の所有者に帰属する 当期利益	310 ~ 330 億円	・営業利益と同様、レンジベースでの予想
EPS	303 ~ 322 円/株	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己株式控除後株式数1.02億株前提</li> <li>・ただし機動的な自己株式取得を継続的に検討</li> </ul>

\* 業績予想に係る円表示数値は全て21年度実績為替一定ベース

## 2022年度 セグメント別予想

全ての事業セグメントで、2021年度実績と比較し増収増益を目指す

億円	売上収益 (IFRS)				コア営業利益 (Non-GAAP)			
	2022年度 予想	前期 (2021年度 実績)			2022年度 予想	前期 (2021年度 実績)		
		売上収益	前期比	前期比		コア営業利益	前期比	前期比
日清食品	2,180	2,108	+ 72	+ 3.4%	315	306	+ 9	+ 3.0%
明星食品	390	379	+ 11	+ 2.8%	25	24	+ 0	+ 1.8%
<b>国内即席めん事業</b>	<b>2,570</b>	<b>2,487</b>	<b>+ 83</b>	<b>+ 3.3%</b>	<b>340</b>	<b>330</b>	<b>+ 10</b>	<b>+ 2.9%</b>
低温・飲料事業	830	809	+ 21	+ 2.6%	35	33	+ 2	+ 5.5%
菓子事業	715	690	+ 25	+ 3.6%	36	32	+ 4	+ 14.0%
<b>国内非即席めん事業</b>	<b>1,545</b>	<b>1,499</b>	<b>+ 46</b>	<b>+ 3.1%</b>	<b>71</b>	<b>64</b>	<b>+ 6</b>	<b>+ 9.7%</b>
国内その他	25	22	+ 3	+ 15.1%	10	19	△ 9	△ 46.5%
<b>国内 計</b>	<b>4,140</b>	<b>4,008</b>	<b>+ 132</b>	<b>+ 3.3%</b>	<b>420</b>	<b>413</b>	<b>+ 7</b>	<b>+ 1.7%</b>
米州地域	935	873	+ 62	+ 7.1%	35	29	+ 6	+ 18.8%
中国地域	590	555	+ 35	+ 6.3%	65	61	+ 4	+ 5.7%
アジア地域	170	148	+ 22	+ 15.0%	46	41	+ 5	+ 11.3%
EMEA地域	115	114	+ 1	+ 1.2%	14	4	+ 10	+ 228.6%
<b>海外 計</b>	<b>1,810</b>	<b>1,689</b>	<b>+ 121</b>	<b>+ 7.1%</b>	<b>160</b>	<b>136</b>	<b>+ 23</b>	<b>+ 17.2%</b>
<b>国内・海外 計</b>	<b>5,950</b>	<b>5,697</b>	<b>+ 253</b>	<b>+ 4.4%</b>	<b>580</b>	<b>549</b>	<b>+ 31</b>	<b>+ 5.6%</b>
その他連結調整						△ 54		
グループ関連費用					△ 60	0	△ 6	-
<b>既存事業 計</b>	<b>5,950</b>	<b>5,697</b>	<b>+ 253</b>	<b>+ 4.4%</b>	<b>520</b>	<b>496</b>	<b>+ 24</b>	<b>+ 4.9%</b>
新規事業					△ 25	△ 29	+ 4	-
					~ △ 50		~ △ 21	
<b>連結 計</b>	<b>5,950</b>	<b>5,697</b>	<b>+ 253</b>	<b>+ 4.4%</b>	<b>470</b>	<b>466</b>	<b>+ 4</b>	<b>+ 0.8%</b>
					~ 495		~ + 29	~ + 6.1%

\* 中国地域の戦略、それに基づく各種目標ならびに業績予想数値は、日清食品HDが独自に設定したものです

## 2022年度の価格改定の状況について（国内）

会社名	主な対象製品	価格改定実施日	価格改定率
日清食品	即席袋めん、即席カップめん 即席カップライス、即席カップスープ	2022年6月1日出荷分から	希望小売価格の5～12%アップ
明星食品	即席袋めん、即席カップめん 即席カップスープ	2022年6月1日出荷分から	希望小売価格の6～12%アップ
	オープンプライス商品		出荷価格の11%～14%アップ
日清食品チルド	チルドめん各種（一部製品は価格を据え置く）	2022年3月1日納品分から	希望小売価格の6～12%アップ
日清食品冷凍	冷凍めん製品の一部	2022年3月1日納品分から	出荷価格の6～13%アップ
日清ヨーク	乳酸菌飲料およびドリンクヨーグルト	2022年6月5日出荷分から	出荷価格の5～14%アップ
日清シスコ	「ごろグラ」シリーズ	2022年6月13日発売分から	内容量7～14%程度減
	「ココナッツサブレ」シリーズ等	2022年9月5日・9月20日・ 10月3日発売分から	内容量13～47%減
湖池屋	ポテトチップス系製品各種（一部の製品を除く）	2022年2月1日及び4月1日	6～11%程度アップ
	スリムバッグシリーズ等	2022年6月6日発売分から	内容量6～9%減
	ポテトチップス系製品各種（一部の製品を除く）	2022年9月1日以降	改定率4～9%
ぼんち	「綱揚あられ」「ボンスケ」ブランド	2022年4月1日出荷分から	内容量6～11%減

## 2022年度の主な価格改定の状況について（海外）

米州地域	主な対象製品	価格改定実施日
米国	袋めん、カップめん	2022年8月
ブラジル	袋めん、カップめん	2022年5月

中国地域	主な対象製品	価格改定実施日
香港	出前一丁、合味道、U.F.O.	2022年4月

アジア地域	主な対象製品	価格改定実施日
シンガポール	袋めん、カップめん	2022年7月
インド	袋めん	2022年4月
ベトナム	袋めん	2022年6月
インドネシア	袋めん、カップめん	2022年6月

EMEA地域	主な対象製品	価格改定実施日
欧州	袋めん、カップめん	2022年1月～4月

本資料に掲載しております当社グループの計画及び業績の見通し、戦略などは、発表日時点において把握できる情報から得られた当社の経営判断に基づいています。あくまでも将来の予測であり、「市場における価格競争の激化」、「事業環境をとりまく経済動向の変動」、「為替の変動」、「資本市場における相場の大幅な変動」他、様々なリスク及び不確定要因により、実際の業績と異なる可能性がございますことを、予めご承知おきください。

また、本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさせていただきますようお願い申し上げます。

- このプレゼンテーション資料は、PDF形式で当社ウェブサイト「決算短信・補足資料・決算説明会関連資料」に掲載しています  
<https://www.nissin.com/jp/ir/library/>
- この資料の金額は、千円単位で算出し、億円単位未満を四捨五入して表示しているため、内訳と合計金額等が一致しない場合があります
- 当該資料の決算期は原則として、20YY年4月1日～20YY年3月31日を「20YY年度」または「YY年度」とします
- 中国地域の実績は、日清食品ホールディングス連結の方針に基づくもので、香港日清の開示とは異なる可能性があります。また、中国地域の戦略、それに基づく各種目標ならびに業績予想は日清食品ホールディングスが独自に設定したものです



日清食品ホールディングス株式会社